



善前小だより

No.4 平成30年7月号

7月2日 発行

住所 南区太田窪2500番地1

電話 882-7871 FAX 811-1329

ホームページ <http://zenmae-e.saitama-city.ed.jp>

「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

体験を 学びの糧に

校長 小田切 倫子

早いもので7月となり、1学期の最終月となりました。子どもたちが一生懸命育てているアサガオやホウセンカ、ミニトマトやサツマイモなどがぐんぐんと生長し、子どもたちの成長と重なります。

先月、3年生の算数の授業を参観しました。

「ガムが12こあります。3人で同じ数ずつ分けると1人分は何こになりますか。」初めての『割り算』の学習です。その学級では、紙のお皿3枚とガムに見立てた12個の算数ブロックを使い、一人ひとり答えを考えていました。子どもたちの様子を見てみると、配り方に2つのパターンがありました。お皿にブロックをまず1つずつ乗せ、3枚目のお皿まで配ったらもう一つずつ乗せる配り方と、最初から4つずつ乗せる配り方です。

この問題文に正対した配り方は、1つずつ乗せて配る、前者の配り方です。おそらく、『割り算』の学習は初めてでも、数が小さいこともあり、すでに1人分が4つだと分かったので、最初から1枚のお皿に4つずつ乗せたのでしょう。後者の配り方を問題文にすると、「ガムが12こあります。4つずつ配ると、何人に配ることができますか」となります。

この様子を見て、ふと考えました。子どもたちは、生活の中で“分ける”という体験をどのくらいしているのだろうか。自分の子どもの頃を思い出すと、イチゴやさくらんぼなどを洗って家族分に分けるのは、私の仕事でした。従妹で集まってトランプをするとき、カードを配る役目を買って出たのも私でした。時代が変わり、生活様式や遊びも変化し、もしかすると“分ける”という作業をする機会そのものが減っているかもしれない、そんなことを考えたのです。

具体物を使っての作業や実験、映像を見ての学習等もありますが、学校での学習の多くは、言語を媒体として展開されます。それだけに、言葉からどれだけ具体的なイメージがもてるかということは、学ぶ上で重要な鍵となります。言葉からしっかりとイメージを描いて理解できることが学びを深める土台となり、それを支えるのが体験と言えるでしょう。

お手伝いでお米の買い物を頼まれて、帰るとき袋がずっしり重かったこと、初めて地図を頼りに自力で目的地に到着することができて嬉しかったこと、山で深呼吸したとき、ひんやりとした空気に緑の香りがして、すがすがしい気持ちになったこと、同じ海なのに、お天気や場所によってこんなにも色がちがうこと・・・様々な体験が量感や質感、感情などとして心に蓄えられ、各教科等の学習の際、学びを深める糧となるのです。

今、VR（バーチャルリアリティ）が注目を浴びており、物事によってはVRを活用することが有効となる分野もあるでしょう。でも、成長段階にある子どもたちには、五感を使ったリアルな体験をたくさんして欲しいと思います。

夏休み明け、心の引き出しをいっぱいにした子どもたちに会うのを楽しみにしています。末筆になりますが、保護者や地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。